

ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」 5周年特別コンテンツ『Gardening in the dark』を開催 ～ 緑の豊かさを視覚以外の感覚で体感 ～

積水ハウス株式会社は、情報発信拠点「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」（グランフロント大阪）で定期開催しているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン（本社：東京都中央区、代表：志村真介）との共創プログラム、ダイアログ・イン・ザ・ダーク（以下、DID）「対話のある家」第21回を、4月26日（木）から開催します。国内唯一^{※1}のDID常設会場である当施設は、2013年4月の開設から今年で丸5年を迎えます。今回のテーマは「Gardening in the Dark」。緑のある暮らしを、手触りや香り、音や味など、視覚以外の感覚で体験。更に参加者へ苗木のプレゼントもご用意しました。実施に先立ち、3月29日（木）正午よりWEBでのチケット先行販売を開始します。

まっ暗闇のソーシャル・エンターテインメント。

5周年特別コンテンツ

Gardening in the dark

～いつかこの木の下でおしゃべりしよう～



真っ暗の中に家が建てて5年。
この家の家族になってくれた人は
16,000人以上。
お祝いしたくて、見えない庭に
木を植えることにしました。

突のなる木なんてどうでしょう？
木を見上げワイワイおしゃべりできたら
楽しそうです。

世界で唯一「家」「家族」をテーマに展開する「対話のある家」。開設以来、「春を呼ぶ音」「夏のおしゃべり」「真っ暗闇のクリスマス」など、季節に沿って家族や暮らしに焦点を合わせた、他にはない独自プログラムを提供し、この5年で1万6000人以上の方が体験しました。

第21回の今回のテーマは、「Gardening in the Dark～いつかこの木の下でおしゃべりしよう～」。暗闇の住空間で視覚以外の感覚を研ぎ澄まし、土や植物の香りや感触を体感。緑のある暮らしがもたらす心地よさや自然の豊かさ、そこから生まれる「心地よい対話」の温かさを再認識できる機会の提供となることを目指しています。

<これまで世界41カ国以上で開催、800万人以上が体験したDID>

1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケが発案。参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、暗闇のエキスパートである視覚障がい者のアテンドのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験する「ソーシャルエンターテインメント」です。

人の声の温かさ、対話の可能性の発見、視覚以外の感覚が育む「心地よさ」など、DIDの魅力は体験した人にしかわからない体験価値にあり、「DID 対話のある家」来場者アンケートでは「また来たい」が86%と、高い人気を得ています。

※1 個人で参加できる日本で唯一の常設施設です。

積水ハウス株式会社 広報部

（大阪）TEL 06-6440-3021

（東京）TEL 03-5575-1740

（本社）大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル タワーイースト

<ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」第21回 5周年特別コンテンツ 『Gardening in the Dark ～いつかこの木の下でおしゃべりしよう～』 概要>

- 開催場所 : グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル4階 (大阪市北区大深町3番1号) 積水ハウス「SUMUFUMULAB (住ムフムラボ)」
- 開催期間 : 2018年4月26日 (木) ~6月18日 (月)
- 参加料金 : 大人3,500円/学生2,500円/小学生1,500円 (税込)
- チケット発売 : 2018年3月29日 (木) 正午~
- 定休日 : 火曜日・水曜日
- 所要時間 : 70分
- 参加人数 : 各回6人まで
- 特記 : ご参加の方は、苗木をひとり一鉢お持ち帰りいただけます。
※幅15×高さ50cm程度 (お持ち帰り用の袋はご用意しております)
- 申込方法 : 予約状況確認・申込はWEBから <http://www.sumufumulab.jp/did/>
- 「対話のある家」お問い合わせ事務局 : 0120-39-9683 (11:00~18:00 ※土日祝日除く)

<DIDと積水ハウスの共創プログラム「対話のある家」について>

積水ハウスは「生涯住宅」の思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「DID 対話のある家」を実施しています。「純度100%の暗闇」の中で、住まいにおける様々な生活シーンを体験し、日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供します。

さらに、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を実現する、住まいの快適性を深化させる研究にも活かしてまいります。



見て触れて楽しめる
「DID 対話のある家」の展示

<これまでの開催実績>

- 開催日数 : 2013年4月26日から開始、計798日間 (2018年3月21日現在)
- 参加者数 : 16,260人 / 性別 : 男性40%、女性60%
- 年代 : 10代以下8%、20代29%、30代27%、40代22%、50代11%、60代以上3%
- クリスマス、お正月など、季節ごとに毎回異なるプログラムを開催、体験するたびに新しい発見が得られるとの声も多数いただいております。

<これまでの体験者の声>

- 実は人見知りなのですが、暗闇の効果で仲良くなれました。視覚からの情報がない分、感覚や感情がいつも以上に研ぎ澄まされました。人の本質に向きあえるとてもステキな空間でした。(女性 30歳)
- 2度目となる今回の発見は、真っ暗の中では皆が家族のようにリラックスして語り合えるということ。小さな気づきや相槌も、声にすることで場が和み共有できる嬉しさがありました。(女性 22歳)
- 普段まわりの目を気にしていること、それがいかにもったいないかを実感しました。自分の「心」をつかって話すこの経験を、今後の教師人生で多くの子ども達に伝えていきたいです。(男性 19歳)
- 真っ暗で子どもが怖がるかと思っていましたが、スタスタと大人よりも先に進み楽しむ様子に驚きました。(女性 46歳)
- 失敗も違いも受け入れる、だから助け合う。そんな感覚をみんなが持って普通に実行している。暗闇の中はすてきな場所でした。この感覚を忘れたくないな…。(女性 23歳)
- 人とのコミュニケーションを目で終わらせていることが多く、暗闇で対話と心でつながることの大切さを再確認できました。また参加して、多くの人へ伝えたいです。(男性 32歳)
- 人が居ることの安心感を強く感じました。声と手の感覚の大切さ、人の存在がとてもいとおしいと感じました。家族がいてよかった、幸せと思えました。(女性 42歳)